

平成30年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495400325	事業の開始年月日	平成26年 3月 1日
		指定年月日	平成26年 3月 1日
法人名	ALSOK株式会社ウイズネット		
事業所名	グループホームみんなの家・川崎多摩登戸		
所在地	(〒214-0014) 神奈川県川崎市多摩区登戸302		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成30年11月26日	評価結果 市町村受理日	令和2年5月8日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.wis-net.co.jp
----------	-------------------------------------------------------------------

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節ごとの壁画作りや、誕生日会などで季節を感じてもらったり、ボランティアさんによる演奏や踊りの鑑賞会を計画し実行普段とは違うレクリエーションを取り入れることで入居者様・ご家族様・職員の気分転換につなげ運営理念でもある明るく笑顔の毎日を送れるような空間作りに力を入れています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	平成30年11月29日	評価機関 評価決定日	平成31年3月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】
当事業所は、JR南武線中野島駅から徒歩で10分ほどのところにある。事業所の周囲は、農地や果樹園、敷地の広い戸建て住宅、低層マンションなどがあり、自然豊かな環境がある。周辺道路は交通量も少なく、散歩に適している。すぐ近くに多摩川支流の二ヶ領本川や用水路があり、春の桜の季節には利用者が花見に出かけている。

【理念の実践】
事業所理念「地域とともに明るく笑顔の毎日を」を掲げ、利用者が毎日笑顔で過ごせるように、職員が率先して笑顔で利用者に話しかけている。職員同士で利用者の話をするときも、利用者が不安にならないような雰囲気づくりや、利用者同士が互いに話したり、相手のことを慮れるような相性を考慮して席の配置などを決めている。利用者が地域の一員として地域の行事に積極的に参加したり、地域の行事を受け入れ、一緒に楽しんでいる。

【チームケアの実践】
ここ数年職員の異動や退職が続いたが、今年度夏に、近くの系列の有料老人ホームから新しいホーム長が異動してきた。勤務歴の長い職員たちが中心になり職員会議や日々の申し送りなどで積極的に意見や提案をし、利用者にとって何が最適に必要なケアかを話し合い、研修や勉強会などで職員が共有に努めている。近隣の系列の有料老人ホームと合同で買い物レクを今年度初めて行い、利用者の好評を得ている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	GHみんなの家・川崎多摩登戸
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	GHみんなの家・川崎玉登戸
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念・必要な人に必要なサービスの提供を 運営理念・地域と共に明るく笑顔の毎日をとし実践につなげている。	職員は毎日利用者が笑顔で過ごせるホームづくりを念頭に、自分たちも笑顔で接することを常に心がけている。ここ数年、ホーム長の交代や職員の入れ替わりがあったが、勤務歴の長い職員が中心になり、利用者に不安を与えないように常に笑顔でケアに当たっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事（台和町会の大太鼓・台和びっくりひな祭りハロウィンパレード）に参加している。	町内会に加入して地域の行事に参加している。春の桜祭りや、夏には登戸神社の夏祭りの大太鼓を聞きに出かけている。地域の子供たちがハロウィンに行くパレードにお菓子を用意して協力をしている。当日は50名程の子供たちが仮装して現れ、利用者は驚きとともに交流を楽しんだ。余暇でボランティア活動をしている職員の音楽グループがクリスマスに演奏会を行ったり、ホームの敬老会では南京玉簾や踊りの演芸を披露している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	買い物（入居者様の物・施設の物）に行き店員さんと会話などでコミュニケーションをとり徐々に理解してくれている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状、直近では、職員の離職が相次ぎ、職員の頭数が足りずに、夜勤帯は派遣さん、日中は他事業所からのヘルプさんでやりくりしており、会議は実施できておりません。	今年度は、ホーム長の交代や職員の離職が相次ぎ、2か月ごとの開催に至っていない。昨年度まで年6回の運営推進会議を行ってきたことで町内会や民生委員との関係ができています。現ホーム長は、この関係を継続して運営の強化に結び付けたいと考えています。12月にクリスマス会を兼ねた運営推進会議を行い、多数の家族の参加を呼び掛ける予定にしています。	運営推進会議は家族や地域の方から幅広い意見や提案を聞くよい機会です。前任者が培ってきた地域との関係継続のためにも定期的な開催が求められます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方が多く保護課の職員とは常に連携をとっている。	生活保護受給者が多く入居しているため、多摩区の高齢支援課の職員とは頻りに連絡や相談などで連携をとっている。地域包括支援センター職員や、高齢障害支援課の担当職員との面識がないため、近々協力依頼のあいさつに出向く予定になっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	神奈川本部で行われる安全対策委員会で身体拘束についての講習が行われたり管理者会議などで話されたことを職員に会議などで職員に周知している。	法人が身体拘束をしないケアの実践や、虐待防止に力を入れている。事業所内でも、研修や委員会を早い時期から毎月行い、職員に周知徹底している。転倒のリスクの高い方にはセンサーマットを使用しているが、ベッド柵を使わないで床にマットを敷いて就寝することを検討して試したりしている。玄関は防犯のために家族の要望もあり施錠しているが、ユニット間は自由に出入りができている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	文章や話し合いの場をもうけ職員もケアするにあたり大切なことを認識し職員間でも「それは虐待になるのでは？」と注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は全く出来ておりませんが、今後勉強会を催して、定期的に専門資料等の読み合わせを行い、それらを有効に活用できるようにして行きたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ここ約2か月で転院退去1件、死亡退去2件、ご入居2件あった事もあり、契約についての説明とご家族の理解納得がいかに重要かを痛感しております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が直接、職員に意見要望を伝えそれを職員がホーム長に伝え本部につたえる。	年に2回、家族会を開いているが参加者が少なく家族の意見を拾い上げていない。受診の依頼などにも応じてもらえない家族もいるため、今後は家族が参加しやすい方法などを考慮している。以前は家族に向けて「みんなの家便り」を出していたが今は出せていない。毎月2回ブログでホームの様子などを伝えている。今年度、買い物がしたいとの利用者の要望を受け、近くの系列有料老人ホームと合同で買い物レクを行い、好評を得ている。	家族会を行っていますが参加者が少なく、面会の家族も決まった方に偏っています。家族が参加しやすいように、日程を工夫して参加率を高め、家族の意見を運営に反映させることが求められます。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	可能なことと不可能なことがあるがその都度ホーム長や課長に伝え面接をしている。	毎月のフロア会議とカンファレンスで職員の意見や提案を聞いている。会議では外部研修に参加した職員から緊急対応や感染症対策などの伝達研修も行っている。職員が、外部からの電話などの連絡事項の漏れを無くす為、電話ノートを置く提案が出た。電話ノート置くことで家族や外部からの連絡に対応しやすくなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実現は難しいがホーム長は努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自主性に任せている。一部の職員は自分に必要な研修にさんかしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	月1回開催される安全対策委員会やケアプラン委員会に担当職員が参加し他職員に周知している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアの基本だと思います、ほとんどの職員は努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・ご家族様との信頼関係がとても大切だと思います、ひとりひとりのご家族様のうったえに耳を傾けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困った時だからこそ助けを求めるのです。すぐに対応する時間がかかる時はきちんと理由の説明をする。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ここでの生活の中で自然に出来ていると思います。良い関係だと思っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一部のご家族様は成立しているが「私には関係ないというご家族様も多い。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	こちらが努めていても拒否されるご家族様も多い。	地元から入居している方の友人の来訪がある。来訪に際しては必ず家族の了解を得ている。家族と墓参りや法事、兄弟の家や、親戚の方と会食に出かける方もいる。以前から購読していた新聞を引き続き購読される方や、携帯電話を使う方もいる。入居前にはカラオケなどで歌うことが好きだった方に歌詞カードを渡したところ、利用者全員が歌いだしたエピソードがある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様を観察中に入った方が良い場合は仲介し関係が円滑にいくようにつとめる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様からの相談があった時は応じる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活パターンは個々の望みを重視している。	発語が困難な方やコミュニケーションが取れなくなった方は、表情の変化や今までの生活記録などで思いや意向を把握している。家族の面会時や、職員と買い物や受診に出かけた時に本音が出ることもある。必要な情報は日々の生活記録や申し送り簿に記入して共有し、ケアプランに反映することもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴はその人となりをする上で重要でもありその方の生活歴やいままでの状況を踏まえてケアする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これを除いてはケアできないので重要である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにて行っている。	入居時に作った介護計画は、1か月後に再アセスメントをし、プランを作り直している。通常6か月ごとに見直しをするが、必要に応じて3か月や随時見直すこともある。日々のケア記録の上にケアプランを挟み込み、職員は常にケアプランを確認しながらケアに当たっている。カンファレンスでは、ケア記録をもとに話し合い、モニタリングや評価をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に合わせて（例）買い物好きな方には付き添って買い物に行く。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	パイプはあるが、開設してから責任者が9人目であり、地域資源との密接なつながりが未だ不十分である。今後の取り組み方によりご利用者の心身が、幸せな豊かで安全な暮らしを楽しめるよう支援して行きたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医（月2回）とできている。個別でご家族様対応で受診されてる方もいる。	協力医（内科）の往診は月2回、歯科医は週1回診察に訪れている。訪問看護師は1週間に1回、利用者の健康管理に来院している。家族対応で他科を受診した際は、診療情報を家族から聞き取り、職員が通院報告書に記入して情報の共有に努めている。今後、遠方にある法人のクリニックから、近隣のクリニックに協力医が変更されることになっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回医療連携看護師が訪問。職員は、看護記録に入居者様の状況や状態困ることなどを記入し相談し医師につなげられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーの作成、病院に提供し退院時も退院サマリーにて職員もその方の現在の状況を把握、わからないことは確認している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診医、ご家族、ホーム長を交えて今後の対応などの相談を行う。	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明をしている。開所から5年を経過しているが、現在は看取りはしていない。ホームでの看取りを希望する家族は少数で、現在は職員体制も看取りをする状況にはないが、今後は家族の希望も踏まえ、条件が整えばホームでの看取りも視野に入れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個々に救急マニュアル研修などに参加しているが全ての職員ではない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員が研修に参加し職場に持ち帰り他職員に周知している。	今年度は日中想定で11月に避難訓練を行っている。今年度中に地震と夜間を想定した訓練を行う予定である。多摩川の支流や用水路が近くを流れているため、数年前の豪雨の際に玄関前まで水が上がってきた経験がある。玄関の壁に今年度更新されたハザードマップを張り、職員に周知している。災害用備蓄は3日分を備えてあるがリストはない。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	実行している言葉使いは言動に反映する。	利用者を人生の先輩として適切な言葉遣いや丁寧な対応を職員は念頭に置き日々のケアに当たっている。訪問当日も職員の適切な音量で丁寧な声掛けや対応を目にしている。事務所内は整理され個人情報を含む書類などが施錠できる書庫に保管されている。リビングにおいてある日々のケア記録などは、布がかけられたロッカーに収納され、中が見えないように工夫されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様は自己主張が強いが職員はできる範囲で受けとめている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースにできるだけ職員が合わせケアを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	努めているが実際は難しい。必要なふくがないご家族様が非協力的で購入できなかったりする。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	過去には実行していたが活動レベルが低下しているため最近是不可能になってきた。出来る方には出来ること役割をきめて手伝って頂いている	委託業者から届いた食材とメニューを外部から派遣された調理担当の職員が作って提供している。利用者の嚥下の状態に合わせて食形態を変えている。利用者は職員と同じ食卓で会話を楽しみながら食事をしている。誕生日のケーキや、利用者の作りたいという要望に応じてホットプレートを使ったおやつ作りを行っている。毎食自分の仕事として2階の厨房で作った食事をワゴンに乗せ、職員と一緒に階下に運ぶ利用者がいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	すべてチェックし水分不足の方には好みの飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必要は方には職員が介助している1回歯科衛生士さんによるケアと月2回歯科医の診察もある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表に・排尿回数・失禁ありなしの回数を記録し排泄コントロールを行っている。	排泄チェック表で定時誘導や全介助の方のオムツ交換などを行っている。完全に自立でトイレで排泄をする方が1名、パットなどを使用しているがほぼ失禁のない方が1、2階合わせて7名いる。排泄チェック表をもとに定時誘導して失禁の減った方もいる。夜間は睡眠を優先している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便・失禁ありなしの回数を記録し便秘がつづくようなら水分を多めにとっていたり、声掛けを行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者様ひとりひとりの希望をできるだけ取り入れて週2回の入浴を実施している。	入浴は基本週2回、1日に4人が入っている。時間などは希望を聞いて柔軟に対応している。1階の浴室にはリフトを設置して、車いすの方も湯船に浸かっている。浴室内の暖房機や脱衣場のエアコンで冬場のヒートショックに備えている。柚子湯などの季節の湯や、職員との会話で利用者は入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れや不眠で睡眠不足の時などは日中に静養をさせていただくなど対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に服用している薬の内容は、職員で情報を共有し症状の変化について常に観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽・手芸・絵画・ゲームなど利用者様と職員が集まる時間をもつ。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日、業務の進行具合などにより出来る限り外出を支援をしている。	職員不足で散歩に行く機会が少なくなっている。玄関先で外気に当たり気分転換したり、利用者と近くのコンビニエンスストアに散歩がてら買い物に出ることもある。今年度、初めてすぐ近くの系列の有料老人ホームに合同のレクリエーションに出かけている。毎年二ヶ領用水の桜祭りを楽しんでいる。	今年は職員不足や夏の暑さもあり、利用者が外に行く機会がほとんどありませんでした。利用者の生活に幅が出るように1階、2階の利用者の交流や、玄関先や駐車場、ベランダなどを活用した外気浴や、ティータイムのお茶会などで変化をつけることを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設では、入居者様の現金は預かり管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙などは職員見守りのもと出来る限りやり取りができるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安らいで心地よく過ごせるようTVの音量や物を動かす大きな音はさける。明るさ温度なども適度に調整している。	共有空間は1、2階の廊下や扉を色違いにして、各ユニットの職員が制作した季節の飾りなどで特色を出している。リビングは整理整頓され、なるべく物を置かない、中のものが見えないようにカバーを付けるなどの工夫が施されている。訪問当日はクリスマスツリーやリースが玄関に飾り付けられ、各フロアの壁にも職員が利用者と一緒に飾ったクリスマスの飾りが華やかな雰囲気を出していた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席など人間関係を配慮してトラブルが発生しないよう決めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様、ご家族の意向を重視して工夫している。	備え付けはエアコン、照明、チェスト、クローゼット、防炎カーテン、ベッドが用意されている。利用者は仏壇、お気に入りのいすなどの家具類、テレビ、カレンダー、時計などの生活用品を持ち込んでいる。利用者の動線に配慮した家具の配置や、家族の写真、ぬいぐるみなどで居心地の良い部屋にしている。居室で購読している新聞を読んだり、整理整頓や掃除をしたりと思思いの時間を過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の自立の妨げにならない様できる限り安全を重視し支援している。		

目標達成計画

事業所名 グループホームみけの家・川崎区藤が丘
 作成日 H20年2月9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5 ⑤	災害対策において昼夜問わず利用者の具体的な避難誘導等が未確認	有事の際の具体的な計画を策定し、担当者・職員に配置人員を決定しておく。	災害対策会議を定期的に実施し、地域連携を強化し協力を得る。	3ヶ月
2	10	運営に関する利用者、家族等意見の反映が未確認の状態である。	月に一度は必ず利用者家族に意見交換を実施する。	毎月「ムネと通信」に家族に送付し、意見交換の機会を造る。	4ヶ月
3	20	チームアとしての同一アアの統一が完全ではない。	カンファレンスにより、全職員が同一のチームアの統一を共有できるようにする。	全職員参加のカンファレンス実施により、チームア統一の意識を完全共有する。	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。